

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第1部・第2部特別課程第48期）

愛媛県 田湊陽子

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1. はじめに

令和7年1月30日から2月28日までの1か月間、自治大学校の研修生として貴重な時間を過ごしました。まず始めにこの研修を受講する機会を得られたことに、心から感謝したいと思います。受講を勧めてくださった上司、家庭を支えてくれた家族、不在中の業務を担ってくれた同僚、事前準備のためにデータや資料を提供してくれた関係部署の職員、充実した研修の実施とご指導をいただきました自治大学校職員及び講師の皆様など、多くの方々の協力のもと、研修に専念することができました。

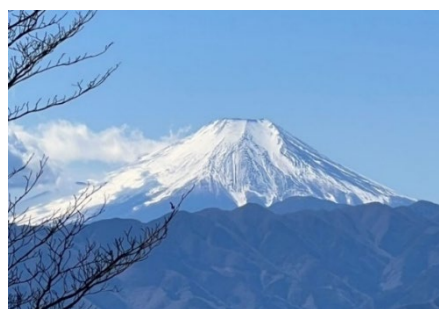
そしてなにより、共に学んだ全国の自治体職員の皆様に深く感謝したいと思います。異なる地域や組織の視点を共有し、「住民の幸福」という共通の目的に向かって意見を交わすことで、多様な課題への理解を深めることができました。そして、自分の限界を一步超える力を得ることができたように思います。

2. 生活と寮での交流

研修開始時のオリエンテーションでは、講義や研修だけでなく、仲間との交流も大切にするようにと強調されました。忙しいスケジュールのなかで人との関わりを深めることができるのか不安でしたが、実際にその大切さを実感することとなりました。

課題の動画視聴がわずかに残ってしまい、初日に自室で取り組もうとしていたところ、仲間が「動画を見ながら一緒に食事をしよう」と声をかけてくれました。この些細な交流が、緊張を和らげ、研修を乗り切る大きな支えとなりました。

同フロアメンバーとの談話室での食事や交流を通じて、政策課題の議論から、各自の推し活や御朱印帳・グルメめぐり、ネイルや美容術にいたるまで、趣味や日常の幅広い会話を楽しみました。フロアではあだ名で呼び合う文化が生まれ、距離を縮めることができました。交流を促進するための食事会の企画や日本地図を使ったプロフィールボードの作成など、積極的に関係を深める工夫をしてくれた仲間に関心から感謝したいです。



研修生7名での景信山登山で撮影した富士山
(R7/2/23)

3. 講義・演習の学び

講義は、政策法務、防災・減災対策、エネルギー政策、多文化共生、デザイン思考など多岐にわたる内容であり、講師陣の個性豊かな講義により、自治体職員としての視野を広げることができました。

演習は特に厳しいスケジュールの中で行われるため、大きなプレッシャーがありました。

ディベート演習では「レジ袋の禁止条例を制定すべきか」というテーマに取り組みましたが、反対意見を論理的に構築する難しさを痛感しました。政策の良し悪しは、最終的に人によって評価されるため、誰にでもわかりやすく、納得感のある説明を心がける必要を痛感しました。論点を整理して説明できなかった自分に悔しい思いもしましたが、後日に、班員と導いた論理構成に政策論争としての面白さがあったと評価されていたことを知り、とても嬉しく感じました。

事例演習では、他自治体の政策事例を、新たな政策に応用する手法を学びました。具体的には「公共私連携・広域連携によるこども政策の推進」と「官民連携による社会課題の解決」について取り組み、それぞれの課題として「鹿児島県ヤングケアラー対象者の把握及び必要な支援」と「愛媛県交通政策における公共私連携プラットフォーム起ち上げ」について討議しました。他自治体職員との事例や見解を交えた議論により、考えつかなかった視点や発想に気付かされました。また、講師からは成功事例の特徴を「一般化」という視点を教わりました。これらの知識や経験を、多くの関係者を連携・調整する業務に活かしていきたいと思っています。

4. 図書館と学びの蓄積

自治大学校の図書室は、政策課題に関する専門書や自治大の先輩方が取り組まれたレポートが豊富に揃っており、課題演習の方向性に迷った際には大いに助けられました。深夜まで取り組んだレポートを提出し

終え、資料返却後にみた図書室前の書が心に残っています。そして、今でも研修で得た「実」の多さを実感しています。



「虚而往實而歸」書

(自治大学校 HP「自治大ギャラリー」より)

5. おわりに

研修の1か月間は、時間制約のある中で、多くの課題や人との交流を並行して取り組んだ期間でした。この時間の使い方そのものが、これからの業務のトレーニングであったように思います。そして、人との交流を大切にすることが、困難を乗り越える鍵となることがよくわかりました。

これから研修を受講される方には、ぜひオープンな姿勢で臨むことをおすすめしたいと思います。自治体職員としての視野を広げ、仲間と切磋琢磨しながら成長する機会を得ることができます。

研修で得ることができた経験を糧に、微力ながらも、住民の幸福のために働く一員として尽力し続けていきたいと思っています。



同フロアメンバーと自治大学校玄関前 (R7/2/28)